

介護サービス理念に沿ったユニットケアを目指して

～暮らしの中に「その人らしさ」を～

特別養護老人ホーム開寿園
船井 浩美

1

平成30年 開寿園ユニット葉梨開設

○介護サービス理念

「その人らしく 暮らし続けられるように 生活を支えます」

○ユニットケア

「自己選択・自己決定」「生活の継続」「自立(律)支援」
本当に介護サービス理念に沿った支援ができていますか？

◎自分たちのユニットケアを見直し、改善しよう！

2

取り組みの流れ

➤各ユニットで介護サービス理念に沿った支援の実施が不十分だと感じている入居者さんを

1名選定

➤観察・コミュニケーション・生活歴を通して
その方が「その人らしく」暮らし続けられる
ような支援・かかわりを決定し、実施

➤振り返り

※発表に際して、本人と家族に同意を得た

※プライバシー保護のため、一部の記載内容に対して論旨に影響を生じない程度の変更を加えた

3

各ユニットの取り組み内容

～Aユニット 対象入居者Dさん～

現状：ADLの低下から、食事は一部介助となっている。夜間は横になっていることが大変な様子で、自身で寝たり端座位になってを繰り返していたが、近頃はご本人に聞きながらだが、介助で臥床・端座位を行っている。

Dさんがどんな思いで生活しているのか（どんな時に笑って、どんな時に不機嫌なのか）そしてそのときの職員はどんな声かけをしていたのか記録し、Dさんの思いを知ることとした

4

各ユニットの取り組み内容 ～Bユニット 対象入居者Eさん～

現状：こちらの声かけに合わせて生活してくれている
感じがあり、ご本人からの「○○したい」などの言葉
は聞かれない。



Eさんについて知ろうということで、1日の生活パ
ターンを3日間記録した



何がどこまでできるのか職員がすぐに介助したり、決
めたりせずに様子を見ながら声かけを工夫した

5

各ユニットの取り組み内容 ～Cユニット 対象入居者Fさん～

現状：自分のことは自分でしたいという思いがあるが、ご
本人ができる部分も介助してしまっているのではないか？
職員は良かれと思って勧めているが、その声かけはご本人
にあっているのか？



- ・食事時、止まったり、気がそれてしまっているとき
に提案する形の声かけをする
- ・排泄希望時、尿器のある場所を伝えてその後様子を見る
- ・本人が好きなおこと、好きなものについての話を心がける

6

成果と評価 ①入居者さんの変化

取り組み前は「なんでもいい」「どちらでもい
い」という返事が多かった



選ぶことをしてくれるようになったり、自分の
気持ちについて話してくれるようになった

声のかけ方や聞き方を工夫することで発言内容
が変わった

7

成果と評価 ①入居者さんの変化

取り組み前はこちらの勧めや声かけで行動を起
こしていた



自分のタイミングで用意されたものを使って
整容を行ったり、自ら雑誌を手に取り見始めた

自ら行動をするようになり、生活への意欲がみ
られるようになった

8

成果と評価②職員の変化

- 対象入居者さんが介助されることで、自分のペースで生活できていない事に気づいた
- 自己選択・自己決定をしてもらうための声のかけ方が決めてもらうだけのものになっており、その方の思いまで聞きとれていないことに気づいた
- 今までのケアはご本人のできることを奪っていたケアだと気づいた

9

まとめ

- 介護サービス理念に沿ったその人らしい生活を入居者さんにしてもらうためには、入居者さんの思いや気持ちを聞き取ることを日々の様々なタイミングで行っていくことが必要
- ケアを行う際には、職員目線でのケアになっていないかを立ち止まり考えることが必要

10

今後の課題

どの入居者さんにおいても、**介護サービス理念**に沿って、「**その人らしさ**」を考えたケアを行っていくこと

ご清聴ありがとうございました

11